

新たな集いの場

ある休日のお昼ちよつと前。白瀬南極探検隊記念館の前に広がる南極広場（通称くじら公園）は小さな子ども連れの家族でいっぱいでした。

大きくくじらのオブジェに子どもを座らせ写真を撮るお母さん。青スジを立て大声を出しながら駆け回る子どもたち。お父さんに下ろしてとせがむ女の子。「転ぶから走るな！」との声は全く聞こえておらず、下りた途端に走りだし案の定転んでしまうその女の子。「だから言ったじゃないの」と無意味な言葉をつぶやきながらその子を抱き起こすお母さん。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族のみんなが、人生を歩みはじめた小さな子どもを愛おしそうに眺めるその光景はまさに「平和」そのものでした。

■完成した多目的屋内運動場

くじら公園の前に建設中だった多目的屋内運動場がようやく完成しました。まだ愛称はありませんが、できれば多くの人から愛される名前を市内の子どもたちにつけてもらいたいと思っています。

6月1日から一般開放される同施設は、フットサルコート2面分の広さを有するメインアリーナと、子どもたちが体を動かし遊べる大型遊具を配置したサブアリーナとの大きく2つからなります。

以前のコラムで述べたように、この施設

建設を建設した理由の一つに、合併協定項目を実現させたいとの思いがありました。しかしながら、その項目の「総合体育館の建設」については市の規模からして相応しくないのではないか、との疑問を私自身ずっと持っていました。また、市民の間からも総合体育館を望む声はほとんど聞こえて来ず、代わりに多かつたのが天候に左右されずに屋外のスポーツを楽しめる施設を望む声でした。

市内には、小出地区にとんがりドームパオやくじら公園に隣接する高台のTDK屋内野球練習場などがあります。いずれも冬場は予約でいっぱいです。私としては、野球やサッカーなどの競技スポーツのためだけでなく、生涯スポーツを楽しむ人たちが日常的に安心して利用できる場所がもっとあってもいいだろうと思っています。

これらがこの施設を整備するに至った背景です。

■集いの場として

また、今回の施設づくりは以前に述べた「政策の補完性」を發揮させる絶好の機会でもありました。そこで整備にあたっては、スポーツ面からだけでなく、コミュニティづくりの面からもその機能を果たせるものをつくりたいと考えました。具体的には新たな集いの場の創出です。

人が集まればそこには新たなコミュニティが生まれます。それまで出会ったことのない人たちと顔見知りになり、人の輪が広がって行く、しかもその広がり世代を超えたものであればさらに大きなコミュニティ、多様性のある居場所となっていくはず。これが家族を連れてやって来る小さな子どもたちのための空間、サブアリーナを整備した理由でもあります。

これまでも竹島瀧周辺は、白瀬南極探検隊記念館や大型遊具のあるくじら公園が、また隣接する高台にはTDKの野球場やサッカー場、屋内野球場や屋内プール、そしてスポーツ宿泊施設などが整備され、多くの人が訪れるエリアとなっていました。今回の施設が世代を超えた人々が集う場として利用されていけば、この一帯は今以上に市民が誇りに思える場所になると思いますし、同時に市内外の人たちの人気のお出かけスポットになると私は思っています。



にかほ市長
市川雄次

